飯島研究会冬季合宿 in 草津

・2017 年 2 月の 5 日から 6 日にかけて、飯島研究室の冬季合宿と銘打ち群馬県吾妻郡草津町の重監房資料館･ベルツ記念館を訪れた。以下、その合宿について記しておきたいと思う。

1. 重監房資料館

   「重監房」とは、戦中期の日本が建造したハンセン病患者の隔離施設である。この施設は、「反抗的である」と判断された患者が収容、というよりは収監される、一種の監獄のような物である。この資料館では重監房を中心に戦前から現代に至るまでの日本におけるハンセン病の歴史を紹介するとともに、重監房を再現した原寸大のジオラマが展示されていた。

2. ベルツ記念館

   これは、明治時代の日本で「お抱え外国人」として活躍し、医学の発展に寄与した人物であるベルツ(エルヴィン・フォン・ベルツ)を記念して立てられた記念館である。ベルツ本人やその家族、業績や発言が紹介されているほか、日本とドイツの学生間交流についてのパネルや書籍が展示されていた。

どちらも医療史に関わる施設であるが、そのどちらにも草津温泉も密接に関わっていることが訪れてみて始めてわかった。ハンセン病の湯治に草津温泉が使われたことから患者たちの住む区域が温泉の近くに形成されているし、ベルツは温泉に興味を示し草津を来訪した際に、「この温泉は世界でも有数の泉質を持つ」と述べている。これらの歴史的な出来事からは、人々と温泉が医学的にだけではなく社会･政治的にも結びついていたことがわかる。ひいては、温泉と人間の歴史的なつながりの深さにも気付くことができた。

今回の旅行で、草津が単なる温泉街ではなく、深い歴史のある土地だということがわかった。また、草津の歴史は日本だけではなく世界にも開けた広い歴史であると言えるかもしれない。雪の中入る温泉は趣があり、地酒も良かった。総じて、非常に多くの物を得ることができた合宿であると思う。

次ページでは、合宿中に撮った写真を掲載する。少しでも合宿の空気を感じ取っていただけたら幸いである。

重監房資料館の外観。訪れた日は雪が降り続けていたため、その中を歩いて行くことになった。

草津温泉・湯畑で一枚。写真右奥の小さな建物は足湯になっている。